

令和2年4月3日

福井工業大学に入学された皆様へ

福井工業大学
学長 掛下 知行

新入生の皆様、ご入学大変おめでとうございます。また、保護者の皆様、誠におめでとうございます。本学を代表してこころよりお祝い申し上げます。本来ならば、入学式において、皆様に直接お祝いの言葉を述べるべきところではありますが、ご承知の様に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新入生・保護者および関係者の皆様方の健康面・安全面を考慮し、誠に残念ではありますが、入学式を中止せざるを得ませんでした。皆様のご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

本年度本学においては、学部 605 名（工学部 305 名、環境情報学部 213 名、スポーツ健康科学部 87 名）、大学院博士前期課程 13 名、博士後期課程 9 名（応用理工学専攻 9 名、社会システム学専攻 13 名）の新たな入学者をお迎えすることが出来ましたことは私どもの深く喜びとするところであります。皆様は希望に胸を膨らませて、それぞれの志した学問に励むことを強く思っていることでしょう。そこで大学で学問をすることの意義について改めてお話をさせていただきます。

最近では聞くことが殆どなくなりましたが、学問に関係した重要な譬えに「隱公左伝」という言葉があります。左伝というのは本の名前で、正式の名前は春秋左氏伝といいます。この本は、皆さんも知っている儒教の開祖である孔子が書いた「春秋」という歴史書を左丘明という人が解説したものです。古くから日本でも、知識人の最も重要な教養の一つとされて来ました。福井の幕末の偉人である橋本左内先生も幼少でこの「左伝」を完全にマスターしその思想の基礎としたと言われております。「隱公」というのはその左伝の第 1 章の名前です。そして、「隱公左伝」とは一人で左伝を勉強しようとするほとんどの人は第 1 章で諦めてしまうという譬えです。すなわち長続きがしないということの譬えです。この経験は皆様にも、一度はあると思います。例えば、現代では、あらゆる情報がすぐに手にはいるネット社会ですので、一人で家や図書館でパソコンを用いて e ラーニングにより勉強することが可能ですが、一部の方は別として、多くは「隱公左伝」の状態に陥ります。

しかし塾や学校で、すなわち、良き先生と共に学ぶ仲間と一緒に勉強すると、不思議なことに、「左伝」のような難しい書物も最後まで理解して身につけることができるのです。これが学校の存在意義で、皆様の場合は大学となります。

では大学で学ぶとなぜ「隠公左伝」を排除できるのかについて、もう少し考えてみましょう。すでに皆様も気づいていると思いますが、学問を身に付けるあるいは究めるという過程には、先生や同級生と語り合い、ともに考え教え合う事などの学問的コミュニケーションがあります。このコミュニケーションは極めて大切なもので、これを通してのみ本当に学問を自分の物とすることが出来ると言っても過言ではありません。このことは、学校という起源を有する古代ギリシア時代から全く変わっておりません。古代ギリシアの大哲学者プラトンがアテネに作ったアカデミアという学園が学校の起源ですが、そのアカデミアでプラトンは、恩師のソクラテスに従って、対話によって若者に哲学を教えました。この対話こそ、先に述べました学問的コミュニケーションであり、その意味で現在の大学にも脈々と引き継がれています。ですので、皆様も、先生の授業をよく聞いて、たくさん質問し、同級生と教え合い、議論して、勉強するように努めて下さい。このことによって、学問を真に身につけることが出来ることとなります。と同時に、学問的コミュニケーションを通して、将来の財産となる人間関係を作る事も出来ます。私の経験から、この時代にできた友人は真の友です。

また、大学において、上述した友人とともに勉強をすることはもちろんのことスポーツなどの様々な活動を積極的に行い、自己の発展と自己の可能性に挑戦し、学園生活を楽しく送ってください。このために私たち教員、職員は、「すべてを学生のために」という本学のモットーに基づき皆さんの学園生活を最大限に有意義なものとするためのお手伝いを致します。

これから4年間ないしは9年間、上記にお話をしたことを心に留めていただき、大学生活を楽しく送り、それぞれの学問を成就されることを心より願って私の祝辞とさせていただきます。

改めて皆様のご入学に心より祝意を表するとともに、今後のご健康とご発展を心よりお祈り致します。

以上